

* 「II 1888-1889」と書かれた観測野帳を発見

最近発見された明治20年代の観測野帳について、アーカイブ室新聞第390号、第397号、第398号、第402号、第403号、第404号、第405号と6号に及ぶ「観測野帳を発見」という記事を書いた。その中のアーカイブ室新聞第390号(2010年10月18日)は「明治22年(1889年)の太陽観測録発見」という記事であった。今回発見した観測野帳は、facula(白斑)、Spot(黒点)等について書かれているから、太陽を観測した野帳であろう。

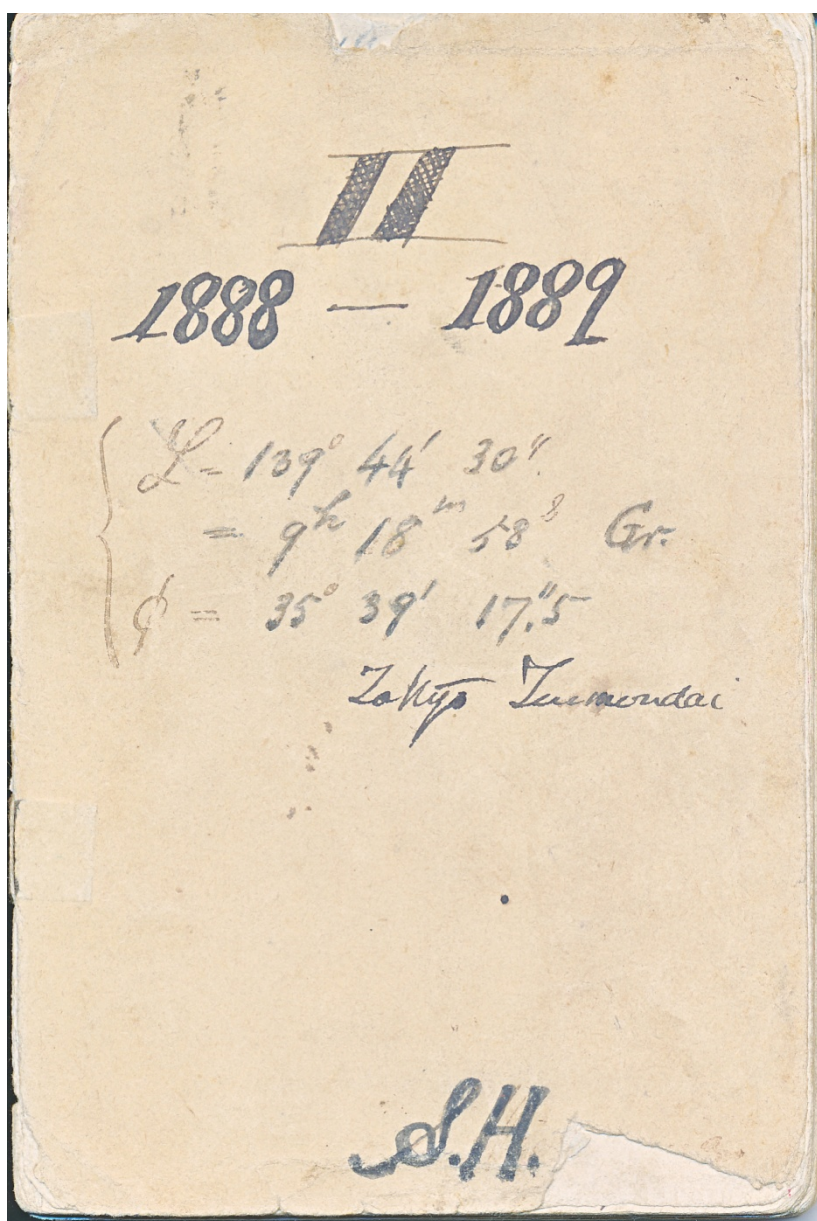


写真1 観測野帳の表紙

この観測野帳は表紙に「II」と書かれているから「I」があったはずであるが、現在のところ見つかっていない。下に「S.H.」のイニシャルが入っている。この時期、このイニシャルを持った東京天文台の人は、第2代東京天文台長であった「平山信」をおいて他にはいないと思われる。平山信は東京天文台75周年記念誌によると、その在職期間は明治23年(1889年)7月から昭和7年(1932年)7月1日とある。東京天文台に正式に採用される前から観測をしていても不思議はないから、この「S.H.」は平山信に違いないと思われる。

表紙に書かれた、経度：139度44分30秒、緯度：35度39分17.5秒は表1：計緯度の基準点(国立天文台ホームページから)に記された「日本経緯度原点」と符合する。

表1:経緯度の基準点

基準点		日本測地系	世界測地系
大子午儀中心跡	経度	139° 44' 40.90"	139° 44' 29.27"
	緯度	35° 39' 16"	35° 39' 27.7"
子午環中心跡 (日本経緯度原点)	経度	139° 44' 40.5020"	139° 44' 28.8759"
	緯度	35° 39' 17.5148"	35° 39' 29.1572"

この野帳の記録は、1888年12月6日に始まり、1889年6月18日までが記録されている。それぞれの日の記録を拾ってみると、

12月6日: Exceedingly clear image, No facula, 以下判読困難

12月7日: 8h55m, gr. 5 now on wedge & 5 of only principal one surrounded by irregular facula,

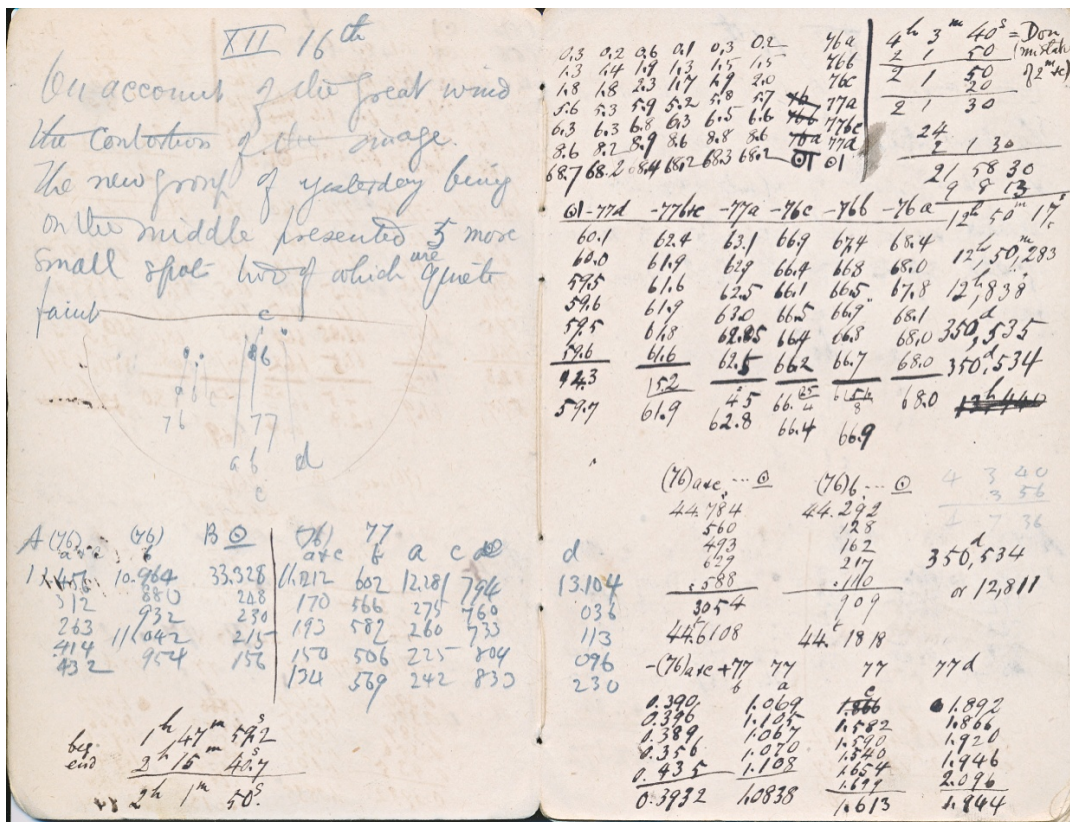


写真2 1888年12月16日のページ

12月8日 : No facula surrounding gr.5 increased very much、
12月9日 : the gr.5 disappeared on the west.、
12月10日 : No spot, bur facula on the E.
12月12日 : No spot, bur facula on E & W、
12月13日 : Great facula on the W、
12月15日 : No facula at all for two date nealy with centre、
12月16日のページは写真2の通りであり、非常に判読が難しい。このページに限らず判読が非常に難しいので、以下には、no spot と書かれた日のみを記して置く。
12月17日 : Three faint detached facura on S.E.
12月19日 : 5 very small facula on the W Lim & 1 also small on very of E
12月20日 : 判読不能
12月23日 : No spot at all, and also no facula、
12月26日 : No spot & no facula
12月27日 : No spot & facula
1889年1月5日 : no spot But small facula on E & also onrhe W
1月6日 : no spoy, no facula on the W , but on the S.e) a facula(karge)
1月7日 : no spot on the S.E. the facula moved toward the center.
1月8日 : No spot.

などという記録がつづく。観測された日付が出てくるのは次のように続いている。

1月11日、1月14日 (no spot & no facula) 、1月15日 (No spot & small facula)、
1月17日 1月18日、1月19日、1月20日、1月21日、1月22日、1月23日、1月24日、
1月25日 1月27日、1月28日、1月29日、1月30日、1月31日、2月1日 2月2日、
2月3日、2月4日、2月5日、2月6日、2月8日、2月12日、2月17日 (no spot & no facula) 、
2月19日 (No spot & a very small facula)、2月20日 ((No spot & a very small facula)、
2月21日 ((no spot & no facula) 、2月22日、2月23日、2月24日、
2月25日、2月26日 (rain) 、2月27日、2月28日、3月1日、3月3日、3月5日、
3月6日、3月7日、3月8日、3月9日、3月14日、3月15日、3月16日、3月17日、
3月21日 (no spot, two facula) 、3月22日 (no spot, no facula) 、3月26日
(no spot & no facula) 、3月27日 (no spot & no facula) 、3月28日 (no spot) 、
3月30日 (no spot & 28's facula) 、4月2日、4月3日、」4月4日 (rain)、4月5日、
4月7日、4月8日、4月13日、4月14日、4月17日 (no spot & no facula Very clear surface)、
4月21日、4月21日、4月24日、4月25日 (no spot & facula)、4月27日
(no spot & facula)、4月29日 (no spot & facula)、5月1日 (no spot & facula)、5月2日
(no spot & facula)、5月3日 (no spot & facula)、5月5日、5月6日、5月7日、
5月8日、5月9日、5月11日、5月12日 (no spot & facula)、5月13日 (no spot & facula)、
5月18日 (no spot & facula (very small))、5月19日 (no spot very clear surface)、5月21日
(no spot & facula)、5月24日 (no spot & facula)、5月25日、5月26日 (no spot & facula)、
5月27日、5月29日、5月30日 (no spot & facula)、5月31日 (no spot &

facula)、6月3日(No spot, bar large facula)、6月4日(no spot & facula)、6月5日(no spot & facula)、6月6日(no spot & facula)、6月7日(no spot & facula)、6月9日(no spot & facula)、6月10日:記述なし、6月11日(no spot & facula)、6月13日(cloudy no spot & no facula)、6月14日(no spot & facula)、6月15日(cloudy)、6月18日:Cloudy、

この観測野帳は、1889年6月18日で終わっている。写真3は6月18日の日付があるページである。この第2代目東京天文台長平山信の観測野帳はスキャンしてデジタルデータとして収録したから、1888年~1889年頃の太陽の活動に興味のある方にはデータとして提供できる。

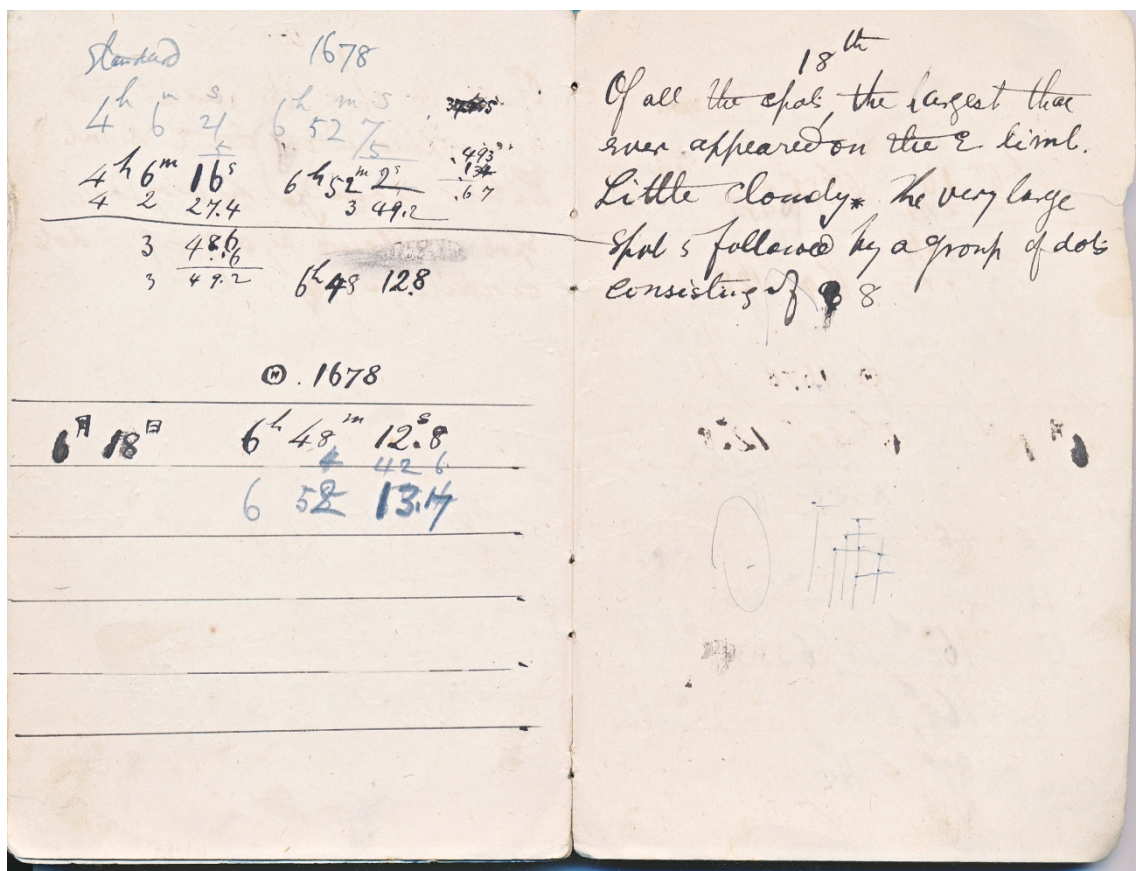


写真3 S.H.のイニシャルの入った観測野帳の最後の日付のページ